

平成 21 年 5 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中齋塾 北関東フォーラム

### 平成 21 年 第 5 回講話

おはようございます。今日は何か氣合が入っていると感じました。代表幹事の挨拶もがらっと変わりまして、やはり新代表幹事になって雰囲気が変わるものだと感じました。又、司会者もかわって、初々しさがあってよいものですね。

#### 恒例の質問

「昨日一日、朝起きてから寝るまでの間で嘘をつかなかった方はどれくらいおられますか」

(・・・沢山手が挙がる)

有難うございます。毎日どこかで嘘をついていると、心の中が少し黒ずんでくるのではないかと思います。嘘を付かない毎日を過ごしていると、爽やかですっきりです。

「昨日一日、良い日だったと思う方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

もう一つお聞きします。

「昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方、手を挙げて下さい」

#### 氣になった事

今朝方、東京駅発 6 時 8 分の新幹線に乗りましたが、駅弁を 400 円で買いました。量も十分入っていて、驚きました。大分変わったものだと思います。例えばこの近くのスーパーに行くと、何を食べてもワンコイン 500 円で食事ができるような所があるので、私も何回か食べましたが、中身が変わったという感じは受けませんでした。どんどんデフレスパイラルが進んでいるなど、特に食べ物に関してそういう印象を強く持ちました。

もう一つは、この間 5 月 13 日、澤浦幹事のテレビ出演を拝見しました。素晴らしいと思ったのは、畳に正座をしていて、ぴょんと飛び上がって立っていました。これは出来そうが出来ませんよ。澤浦幹事は簡単にやっておられましたが、解説がなかったのが残念で

した。「どなたでもおやりになったら如何ですか・・・」と、ぴよんとやってみたら良かったのと思いました。ちなみに出来る自信のある方はいらっしゃいますか？ 回覧版にも澤浦幹事から元気を貰ったというコメントが多く書かれていましたが、凄いと思いました。

## 今日の論語

先ほど素読をして戴きましたが、非常に氣合いが入っていて結構でした。

しかも失敗をしたら、もう一度やり直しをしておられました。これは出来そうで出来ません。大概、人間は失敗しても周りが氣がつかなければ、まあいいやとそのまましてしまいます。もう一回元に戻ってやり直しをする事は出来そうで出来ませんので、感心しました。

では中身に入ります。本日は八佾第三 12～21 章です。

まつ いま ごと かみ まつ かみいま ごと しいわ われ まつり あず  
祭るには在すが如くし、神を祭るには神在すが如くす。子曰く、吾 祭に与からざ  
れば、祭らざるが如しと。

自分の身内の方、お祖父さんやお祖母さん、又はご両親が亡くなられているけれども、いつも一緒にいるなという感じがする方はおられますか？

・・・大分おられますね。

私もそういう感覚がありまして、自分の祖母が亡くなった後は、どうもよく分からないのですが、左の上の方から温かいものが来るような気がします。私の祖母は亡くなる3ヶ月前、入院の為に病院に連れて行く時に、「賢治君に連れて行って貰いたい」と言いました。私が抱いて家の中から車に運んだのですが、抱き上げた時の重たいこと、重たいこと。祖母が「死んでいく人の重さを覚えておきなさいよ」と言うので、どきんとして答えられませんでした。確かに死んでいく人の重さは半端ではないと感じました。小柄で、実に軽そうなお祖母さんなのですが、抱き上げると重い。石川啄木の歌に「たわむれに 母を背負いて そのあまり 軽きに泣きて 三步あゆまず」とありますが、まだまだそのお母さんは死にはしない。生きている証で軽いのだと思うのです。これが「重きに泣きて・・・」となったら、死ぬ寸前だと感じます。その祖母が、今も、やはり斜め上の方にいるような感じがします。

父親が亡くなった時も、やはり左上の方が温かく感じましたが、家内の両親が亡くなった後は、右の方も温かくなってきました。ですから大分あちこちで守ってくれているのだ

と実感しています。

先祖・自分の身内をお祀りする時には、そこに本人がいるのだという気持ちでお祀りしましょう。自分の身内が亡くなって、傍にいつもいてくれると実感がある人は、そのままされるわけです。傍にいるのだと思えない人でも、そのように思ってお祀りするがよろしいでしょう。

意識をすると、神を祀る場合には、神がそこにいると思って真心を尽しながらお参りをすれば良い。私はそうしています、というのが孔子の台詞です。

自分は、先祖を祀る場に何らかの理由で出なかった場合には、祭りをやらなかったように感じる。(報告を聞けば、お祀りをしたと理性では分かるけれども)自分がその場に出ていなければ実感できないではないか、と言っています。

この文章は、自分を見守ってくれている先祖がいるのだなという実感が持てるかどうかです。それが感じられれば素晴らしいですね。まだ持てない場合は、何らかのきっかけがあると持てると思って戴くとよろしい。

おうそんか と いわ そ おう こ むし そう こ い  
王孫賈 問いて曰く、其の奥に媚びんよりは、寧ろ竈に媚びよとは、何の謂いぞやと。  
しいわ しか つみ てん う いの ところな  
子曰く、然らず。罪を天に獲れば、祈る所無きなりと。

今、不況ですから、会社を辞めて別の会社に勤める人がいると思います。例えば、新しく力のある社員が入ってきたら、実力専務が「この会社は私でもっているのだよ。社長のご機嫌を取るよりは、私のご機嫌を取る方がよい」と声をかける。そのように考えればよいでしょう。

王孫の賈という人が尋ねました。

其の奥に媚びんよりは、寧ろ竈に媚びよ・・・これは諺です。貝塚茂樹先生の解説では、「願いごとなら、奥の神棚の大神さまより、へっついの荒神さまよ」とあります。又、洪澤栄一さんの解説には、「正直者の頭に神宿る」という言葉があります。

賈という人間が、奥(衛の靈公)のご機嫌を取るよりは、実力のある私に近寄ってらっしゃいと、孔子に水を向けたわけです。

孔子が曰く、それはとんでもない。私は不正を犯してから、天に許しを請うような事はしたくはない。許しを請う場所はないと答えています。

これは、なぜなぜ問答のような言葉でやっていますから、私はあなたのところに頭を下げたくないということを婉曲に言っています。

派閥争いをしているような会社には、社長のご機嫌を伺うより、実力のある専務や常務

にくっついている方が良いと、水を向けられるような話がよくありますね。しかしそれはどう考えても真っ当ではない。不正を犯していれば、いくら天に祈ってもどうにもならないという答え方をしています。まともな事はまともによれば良い。あっちが良いか、こっちが良いかというご機嫌伺いなどする必要はない。実力のある者は自然と見えてくる、とお考え下さい。

子曰く、周は二代に監みて、郁郁乎として文なるかな。吾は周に従わん。

会社を経営しておられて、3代目の方はいらっしゃいますか？

・・・御一人おられました。

なかなか三代続くのは難しいですね。

二代とは、夏王朝と殷王朝です。その礼楽制度をみながら言っています。

三代目の人は、初代の良かった所は何かと考える。そして二代目の良かった所は何かを考える。良い所を取って、悪い所を捨てれば良い。三代目は、初代と二代目の前例があるから非常にやりやすいとお考え下さい。

夏王朝は美しいし、殷王朝は実用本位です。そこらへんを受け継いで、周は素晴らしい文化を作っていた。私は周の礼楽制度を取り入れたいと思う、と孔子が言っています。

子大廟に入りて、事毎に問えり。或ひと曰く、孰か郷人の子を礼を知れりと謂うや。大廟に入りて事毎に問えりと。子之を聞きて曰く、是れ礼なりと。

聞いた人間は、肩透かしをくらったようなものだろうと思います。

孔子が周公の廟に入って、この作法はどうすれば良いのかと、先輩に一つ一つ細かく聞いていた。それを見て、ある人が「田舎者の子を、どうして礼儀作法をよく知っている人間だと言うのか・・・」と言った。廟に入って何も分からないから、逐一、回りの人間、先輩や同僚に聞いているのではないか。ものを知らないのもいいところだと悪口を言ったわけです。

これを孔子が聞いて、「知っているものでも、相手を敬って、一つ一つ聞いて確認をしているのです。これが礼儀作法の基本です」と言った。

自分が知ったかぶりをするのではなくて、知っていても相手に一步譲って、これはどういふものか、万が一、間違っている場合もあるかもしれないから細かく聞いていく。悪口を言われても、一つ一つ聞いていく事が礼儀作法なのだ得心得て、穏やかに対応するのが

良いと思います。

私も昔、入札で判子が足りなくて苦い思いをした事があります。頭に血が上った時には、なかなか穏やかに対応が出来ません。

ちなみに私は頭に血が上った時には、呪文を唱えるようにします。一つは「おんにこにこ 腹立つまいぞや そはか」という台詞です。もう一つは、詩吟を習いに通っている鉄砲洲神社の手水に貼ってある言葉で、「威張るな 欲張るな 妬むな 怒るな」です。いつもこれを見ると、なるほどこうしないようにしようと思っています。

論語を読む時に肝心なことは、置き換え能力と連想能力です。文章だけ見ても、面白くない言葉が沢山あります。その中で、これはこういう事だろうとか、自分の身の周りでこれに近い事があるなと置き換えて考えてみるのがよろしい。そのように論語をお使い下さい。

しいわ しゃ かわ しゅ ちから しな おな ため いにしえ みち  
子曰く、射は皮を主とせず、力 科を同じくせざるが為なり。古 の道なり。

M & Aなどを考えるといいでしょう。最近私は、或る会社をM & Aで買収しました。その時、力任せでやらないようにしようと思いました。

射は皮を主とせず・・・的に皮が貼ってあって、それをもの凄い勢いで矢が突き刺さって打ち抜く。そういう事をしないようにしましょうという事が書いてあります。古の道として、弓とはその人間の心のレベルの高さを見るのであって、力任せに的に射抜かなくても良い。的に当たるかどうかの問題なのだということです。

力 科を同じくせざるが為なり・・・科とは、等級です。腕力に任せて、力ずくでごり押ししない。等級があるから、そのクラス別に分けてやれば良い。これが昔から伝わっている道である。

これを今風に申します。最近、会社は株主のものだという考え方が広がっています。果たしてそれは、日本に株式会社の制度が導入されてから現在まで、一貫してそういう考え方だったのだろうかと考えてみると、そうではありません。会社は株主のものだという考え方は、アメリカ風の考え方です。ヨーロッパはどうなのかと考えてもよいでしょう。日本型で考えれば、社員の立場を考えたり、地域や国家を考えたり、お客様の立場を考えたり、皆それぞれが良いように日本の会社の経営は進められています。ですから会社は全部株主のものだという最近のM & Aの進め方は、失敗しているケースが非常に多いです。

しこう こくさく きよう さ ほっ しいわ し なんじ そ よう おし  
子貢 告朔の餼羊を去らんと欲す。子曰く、賜や、爾 は其の羊を愛む。

われ そ れい おし  
**我は其の礼を愛む。**

告朔とは、太陰暦の儀式です。餼羊というのは、その儀式で生きた羊をいけにえに捧げるものです。

子貢が登用された時に、告朔の儀式で、いけにえの羊を供える事をやめようと思った。孔子が言うのに、お前は、いけにえの羊を愛しんでやめようとするが、とんでもないことだ。私は伝統を伝える行事をやめてしまう事を悲しむのだ。

渋澤論語の中の解説では、伝統文化の継続で、天皇家の例を出しています。鎌倉幕府以降 700 年経って、王政復古が行われた。そして天皇家が表面に出てきたけれども、700 年間連綿として同じ儀式を伝えて来ている。これが日本の誇るべき伝統文化である・・・という事をかなり強く言っています。

例えば、朝起きた時に「おはようございます」という挨拶を子供に教えるという家風がその家にあるとすれば、朝起きたら皆が「おはようございます」と挨拶をするのが、家風として伝わっていなければいけない。

ですから国家は国家としての伝統文化を守る。会社は会社としての社風を守る。個人の家庭は家庭で、家風を守る。よく、社訓や家訓を作ったりしていますね。明治時代の商家で現代にも通じるような家は、創業の頃に家訓を作っている所が結構多いです。今、自分の家に家訓がなければ、自分で家訓を作って、後世に伝えると良いと思います。会社は結構社訓を作りますが、家庭はなかなか家訓を作りませんから、一つでも二つでも、何か考えて伝えるとよろしいでしょう。

しいわ きみ つか れい つく ひとっ へつら な  
**子曰く、君に事えて礼を尽せば、人以て諂うと為すなり。**

会社の中で、きちんとなすべき事をする。例えば「おはようございます」一つ言うのも、歩きながら「おうっす」とするのと、目の前できちんと立って「おはようございます」と言うのでは、与える印象が全然違います。

きちんと前に立って挨拶をするような人に対して、ご機嫌取りでおべっかを使ってきたないなという人が周りで出てくる。そういう人が多ければ、困ったものだ。

孔子は自分で礼を尽くしているつもりだけでも、周りが「孔子という人は、おべっか使いだ」と言っていると聞こえてくる。困ったものだ・・・と受け取って下さい。そういう事を言う人は結構いますね。でもそれはあまり気にしないで、思った事を思った通りにやるが良いという事です。

ていこうと きみ しん つか しん きみ つか これ い か  
定公問う。君 臣を使い、臣 君に事うること、之を如何にせんと。  
こうしこた いわ きみ しん つか れい もつ しん きみ つか ちゅう もつ  
孔子対えて曰く、君 臣を使うに礼を以てし、臣 君に事うるに忠を以てすと。

定公が孔子に「主君が家臣を使って、家臣が君子に仕える。100%実力を発揮させるにはどうすれば良いのですか」と聞いたわけです。

孔子が答えました。主君が家臣を使うのに、粗略に扱わない。丁寧に丁寧に、礼儀正しく扱うべきである。家臣が主君に仕えるには、真心をもって仕えるのが良い。そうすればお互いが良い。

これは今風に考えれば、国家経営そのものの視点で見るとか、会社経営そのものの視点で見ればよいですね。国家の視点で眺めると、二通り見えます。天皇が今の総理大臣以下すべての大臣を上手に使いこなす。それぞれの実力を発揮して貰うにはどうしたら良いかと考えると、天皇はそれぞれの大臣を粗略にしないで礼儀正しく扱うことです。これはまあまあ出来ていると思います。では、総理大臣が他の大臣や副大臣、次官といった人達を扱うのに、粗略にしないで礼儀正しく扱っているでしょうか……。麻生さんは首を傾げざるを得ない事ばかり言っている。そうするとそれぞれの大臣、次官達が、国民をどう扱っているか……。これはもう、お粗末極まりないですね。

そういう見方をすると、国家の経営は今、日本はどうにもならないと感ずし、会社の経営も同じように見たら良いでしょう。社長が社員に対してどう対応しているか、社員が社長に対してどう見ているか。ちなみに昨日、社員の方たちと懇談会をしました。その中で若い利発そうな社員に、今、経営トップとして私が仕事をしているか、仕事をしていないかについて、質問をしました。

「君から見て、私は今、仕事をしているように見えますか？」

「はい」

「会社でお金が足りなくなると困るから、お金を借りる為に、何か対応し始めた。これは仕事だと思いませんか？」

「いいえ」

「具体的に銀行に行って、やり取りをして、お金を現実に借りてきたとする。それは仕事だと思いませんか？」

「はい、仕事だと思えます」

「経営トップとは、5年先10年先を見て、色々な事を心配して、今時から手を打っておかなければいけないのだけれども、これを考えるのは仕事だと思いませんか？」

「いいえ」

「どうして、いいえなの」

「考えているだけで、何もしないからです」

・・・という会話をしました。一般の社員から見ると、目に見える行動をしない限り、仕事をしているとは思わないのですね。

「経営トップは 365 日、24 時間、寝ている時も仕事なのだよ。創業者というのは大体、土曜日曜はなく、365 日働きづめに働くものだ。そうしない会社は潰れていくのだよ」という話をしました。

ですからトップにいる人間は、自分のやっている仕事を、何かチャンスがあれば、まるっきり通じないような相手にも、相手に分かるような話し方で伝えておく必要があると思いました。そうすると、その人から周りに少しずつ伝わっていきます。そういうものが自然と身体の中に染み込むと、咄嗟の時に出てくるようです。

私は以前、亦楽会という論語の勉強会をずっとやっていて、その中の会員さんに言われた事があります。その方が結婚式に呼ばれて、突然スピーチを頼まれて、何か格好の良い話をしなければならぬと思いながらマイクの前に立つと、何を喋ってよいか頭が真っ白になってしまったそうです。咄嗟に出てきた言葉が、「利によりて行なえば、怨み多し」だったそうです。これは勉強会で毎回毎回聞き続けていたからで、この言葉を使って、お話をされたそうです。こういう話をしようと思って用意しているものは、大概、急な場には間に合いません。無意識の内に、普段忘れていたような言葉がポンと出てくるものです。自分の身に付いている言葉が、咄嗟の時にふっと出るのです。

私の咄嗟の時に出てくる言葉は、「利によりて行なえば、怨み多し」とか、「忙中閑有り」から始まる六中観です。皆さんもこの会合の中で、自然と身に付く言葉を、何か一つでよいから身に付けて戴くとよろしい。こういう論語の話を聞いている中で、これは良いなと思ったら、掘り下げると良いでしょう。

しいわ　かんしょ　たの　いん　かな　やぶ  
子曰く、**閑睢は楽しめども淫せず、哀しめども傷らず。**

閑睢は音楽です。曲の名前です。

素晴らしい音楽を聴いたり、素晴らしい映画を見たりする。楽しみながら、それに溺れないことだ。悲しむけれども、それにくじけない。

私はターミネーターという映画が好きで、何度も見ました。テレビドラマでターミネーターの女性版をやっているのですね。それをこの間、DVDで借りてきまして、楽しみで



続けざまに見ました。楽しみだからといって、朝起きてからずっとDVDを見っぱなしだと、溺れることになります。「淫せず」という言葉は、どうしても男女関係が気になります。男女関係で言えば、その魅力に取り付かれて日常には戻れなくなる。それくらい異性に溺れてしまうところまで楽しんだのでは駄目ですから、途中でストップをかけなければいけない、と読めばよろしい。

あいらう しゃ さいが と さいが こた いわ かこうし しょう もつ いんひと はく もつ  
哀公 社を宰我に問う。宰我 対えて曰く、夏后氏は 松 を以てし、殷人は 柏 を以て  
しゅうひと りつ もつ たみ せんりつ し これ き いわ せいじ と  
し、周 人は 栗 を以てす。民をして 戦栗せしむと。子 之を聞きて曰く、成事は 説かず。  
すいじ いさ きおう とが  
遂事は 諫めず。既往は 咎めずと。

社とは、その土地の神様と思って下さい。

哀公が土地神について宰我に聞きました。

宰我が答えました。

「夏は松を神木にし、殷は柏を神木にし、周は栗を神木にした。(戦慄という言葉のよ  
うに) 国民を言うことをきかせるために、周は栗にしたのだ」

それを孔子が聞いて、「やってしまった事については、良い・悪いは言わない。決着し  
た事は、諫めたりしない。過去のことについては、もう咎めだてはしない」と答えていま  
す。

この章は、どういうふうになつた土地の人達を治めていくかと考えてみればよいでし  
ょう。戦慄するような治世はやめた方がよい、とお考え戴ければ結構です。

今日の論語の中で、私は「祭るには在すが如くし、神を祭るには神在すが如くす」とい  
う章が好きです。普通に座っていても、左肩の方におばあさんがいるなどが、右の上の方  
に家内のご両親がいるなど、何となく感じます。特に映画館に入って、真っ暗闇になると  
そう感じます。

何か一つ、この中から自分の気に入ったものを見つけて戴くとよろしい。

## 基本哲学 今こそ知足の精神

今の時代は不況だと言いますが、不況はもう当たり前だと思って戴いた方がよいでしょ  
う。これから景気が回復して良くなるという事は、考えない方がよい。今年はそのまま行  
きます。来年もそのまま行きます。そして再来年は落ちる。今が当たり前だと思った方が

よい。

それを前提にしてみると、「足るを知る」・・・そんなにがっつかないで、ほどほどで行こうという考え方が、これから生きていく上での人生哲学になるとお考え戴くとよい。そうすると「嘘をつかない」とか「利によりて行なえば、怨み多し」が、自然と身に付いて来ます。

### 心に残る言葉 伝えたい躰

今日ご紹介する言葉は、岡田武彦先生の書かれた『ヒトは躰で人となる』という本の中からとりました。

磨き、磨き、磨いて忘れ、そして実践し、実践し、実習し、実習して、習うことも忘れてしまう、これが「忘<sup>ぼう</sup>」です。「忘<sup>ぼう</sup>」の境地に達すれば、すべてが人間の技を超えて、天然に自然になっていきます。人間の意識を超えて技が自然に行なわれるようになるのです。

『ヒトは躰で人となる』岡田武彦著 登龍館

先ほどの話の中で申しましたが、忘れていた言葉が無意識のうちに口を突いて出る。急に人さまの前で話をしなければならぬ時に、頭が真っ白になっても、<この言葉は良いな>とか<この考え方でいきたいな>と思っているものが、無意識のうちに口をついて出る。そうなってくれば、その言葉は生きた言葉になります。自分が無意識のうちに蓄えていた言葉がふっと出てきて、それを皆さんにお話したら、何となく納得して戴いたように感じた時には、自分自身の血肉になります。人が、なるほどなと思ってくれた時には、その言葉が本物になる。我がものとなるとお考え下さい。ですからこの文章は、忘れるくらいまで磨きぬけば本物だという事です。

この本で岡田武彦さんは子供さんの躰について書いておられますが、その中で、戦後教育に欠けている躰なので特に若いご両親に実践して貰いたいと、具体的な躰を三つ挙げています。これは森信三先生が提唱された躰の三大原則です。

#### 一、靴を揃えさせる

靴を揃えるという事は、片付けるという事に繋がりますから、ものを整理整頓する習慣が身に付いて来る。整理とは、見た時に綺麗にきちんと片付いているなと思う状態です。整頓というのは、必要なものが必要な所からすっと出せる状態です。靴を揃える事のでき

る子供は、整理整頓が出来る子供に育ちます。

一、人から名前を呼ばれたら、「ハイ」と元氣よく返事をさせる

これは意外と出来そうで出来ません。病院でも、名前を呼ばれてぬっと立っていきような光景がよくありますね。「ハイ」という返事は、自分自身の自己主張、存在を明らかにする事ですから、自主独立の精神が養われます。

一、朝起きたら、親が挨拶をする前に「おはようございます」と言えるようにする

「おはようございます」「いただきます」「有難うございます」「失礼します」という挨拶を自分から先にする。挨拶の大切さを教える事です。人と人との人間関係を作る上で、挨拶が出来ない者は、世の中でなかなか生きていく事が出来ません。これは子供の時に教え込むのが肝心です。

今後の世の中で、子供が生きていく上で必要なものは、教育しかありません。教育という事を岡田武彦先生は強く主張しておられます。

## テーマ 判断の三原則で今を見る

中斎塾フォーラムで自然と覚えていただきたいものは、判断の三原則です。本質・大局・歴史という三点でものを見る。更に、知識・見識・胆識の考え方を身に付けて戴く事も大きな目的です。

### 本質で見る

ものを見る、本質は一体何なのかを考えます。本質を見る時に、最初私は1千年の単位でものを見ます。次に数百年の単位で見ます。それから数年の単位で見ます。

1千年単位で今の時代を考えると、やはり文明法則史学で言うように、800年周期で今の西洋文明は廃れて来ています。東洋文明に転換する真っ只中に、今はいるという実感を持っています。1千年単位で見た時に、大きな文明が滅びて新しい文明が立ち上がるのですから、国家が滅びるとか新たに誕生するという事は、当たり前だと思います。

次に100年、200年の単位で見ると、私が師匠と呼ばせて戴いた木内信胤先生は「百年も国民を騙し続ける事はできないよ」と言われました。それは共産主義についてです。「だから共産主義は潰れる。親不孝者が考えた主義などというものは、まともなものではないよ」と言われました。マルクスやレーニンなどは親不孝者だから、そういう人間が考えた主義はまともではない。まともでない主義が100年間も国民を騙し続ける事は出来ないということです。続いて、木内先生は「ソ連はもう駄目になるけれど、ゴルバチョフが殺されては可哀想だね・・・」とも言っておられました。ソ連が崩壊してロシアになった時は、

私もロシアに調べに行きましたが、2000万人から3000万人くらいは飢え死にしているなと思いました。

ちなみに今のロシアを見ると、原油の代金がべらぼうに上がったので、ロシアは大国復活しようとして進んで、何とか格好がつかいましたが、又原油の値段が下がって来ていますから、プーチン体制は終わりだと思います。プーチン体制は終わりですが、あがきにあげて二党政治を始めて、今回日本にやって来たのも、北方領土をエサに日本からお金を引き出そうとしています。

これは100年、200年単位で考えて、共産主義社会が崩壊したと言えるでしょう。そして資本主義社会も今、崩壊しつつあると思います。もう、崩壊したと言っても良いでしょう。

資本主義・社会主義・共産主義といったものが、もう曲がり角に来たのではなく、終わったのです。終わったという事を今、自覚する為の時間で、四、五十年かかるのだらうと思っています。具体的には、お金というものが新しいものになる転換期だと思っています。ですから100年単位で考えると、お金が世の中や人間を動かす社会が終焉を迎えたと本質的に見えています。

ここ数年で見るとどうでしょうか。当然、終焉を迎えての曲がり角ですから、政治家が駄目になるのは当たり前、官僚が駄目になるのは当たり前、経済界が駄目になるのも当たり前です。日本の政治・経済・文化が皆、滅茶苦茶になるのが当たり前の状況だとお考え戴ければよろしい。

## 大局で見る

これは他の国はどうかと考えれば良いでしょう。日本が救いだと思うのは、先ほど言った天皇制があることです。家系がずっと続いている。これは他の国にはない、素晴らしい事だと思います。他の国を見ると、改革をして、前の天子を殺して新しい天子を擁立する。そういう事が普通に続いてきています。日本は、多少同じ家系の中で血を流す事もありましたが、他の国と比べると段違いに少ない。今の日本は、天皇制があるが故に日本が日本として外国に通用していると見えます。

## 歴史で見る

これは終戦直後を見るのがよろしい。終戦直後の記録を調べれば、それがそのまま、これからの日本の有り様に繋がってくるとお考え下さい。

モンゴルの宰相、耶律楚材の言葉で「一利を興すは一害を除くに若かず。一事を生やす

は一事を減らすに若かず」とあります。一つの新しい事業を興す為には、今ある事業を一つ潰せば良い。次から次に手を出すのではなく、今やっているものを一つなくしてから、新しいものを立てればよい。

私も今、色々な事をやるうと考えていますので、削る部分も増やして参ります。現実にはいくつかの団体に休会届けを出しています。事務局機能も削って、講話や書くものも減らしています。どんどん削っていますので、その分、エネルギーが沢山貯まってきます。又、新しい本を出版させて戴きますが、そのような動きに変えています。皆さんもこれから何かやろうと思ったら、まず削ることを考える。新しいものをやる為には、今ある古いものの中から一つ削らなければいけない。古いものに積み重ねていったら、どうにもならなくなります。ここらへんは耶律楚材の教訓が良いと思っています。

#### **時事問題 豚インフルエンザ**

残り時間が数分ありますから、豚によるインフルエンザの話を致します。

これは煎じ詰めて申しますと、鳥による新型インフルエンザの予行演習だと思っています。鳥による新型インフルエンザが発症したら、胃袋がただれて水も飲めなくなります。当然食べものも受け付けません。ですからスポーツドリンクが絶対に必要です。又、3ヶ月間は外に出られなくなると思って戴いた方がよいですから、3ヶ月分の食べものも備蓄する必要があります。どうしても外に出なければならぬとしたら、抗ウィルスマスクをつけて、人混みを避けて外出し、帰ったら手洗い・うがいをする。こういった事が、今の予行演習中に、日常生活習慣として身に付くかが肝心です。こういう習慣がつけば、鳥による新型インフルエンザが発生した時には生き残れると思います。どうぞ日常生活に習慣付けて戴くと良いと思います。

日本人1億2700万人のうち8000万人が感染し、2000万人が死ぬであろう・・・これはごく一部の学者が言っている数字です。一般には、オーストラリアの研究所では、日本人は240万人が死に、アメリカでは日本人は210万人が死ぬだろうと推測しています。日本の政府は68万人が死ぬと言っています。しかし一部の学者は、ゼロが一つ足りないと言っています。とんでもない確率です。いづれにしても今年の暮れか、来年早々に起きると思っていますので、ご注意下さい。

本日は以上で終了させて戴きます。有難うございました。